

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究
課題名：九十九里浜の汀線部におけるチョウセンハマグリ稚貝の分布状況			
〔要約〕九十九里浜におけるチョウセンハマグリ稚貝の発生量は、年変動が大きく、地域によって特徴がある。また、2009年級群は卓越年級群であり、2011年以降の漁獲量の急増は2009年級群が漁獲加入したためと考えられる。さらに、分布が確認された地域の粒径は73%が細砂であることから、粒径は汀線部における稚貝分布と関連があり、禁漁区の設定及び拡大を検討するときの指標の1つになると考えられる。			
キーワード [※] チョウセンハマグリ、稚貝、卓越年級群、分布、底質、中央粒径値			
実施機関名	主 査	千葉県水産総合研究センター	資源研究室
	実施期間	2004年度～2014年度	

〔目的及び背景〕

九十九里浜に分布するチョウセンハマグリは、貝桁網漁業と採貝の重要な対象種であるが、その漁獲量の変動は大きい。近年では2011年に急増してからは、過去に例を見ない豊漁が続いている（図1）。そこで、近年における秋季のチョウセンハマグリ稚貝（1歳貝）の分布密度を整理し、2011年以降の漁獲量の増加との関係、また底質との関係について検討を行い、分布特性などを明らかにした。

〔成果内容〕

- 1 旭市飯岡から長生郡一宮町東浪見までの九十九里浜の汀線部に設定した20調査点（図2）で、チョウセンハマグリ稚貝の分布密度と、底砂の中央粒径値を算出した。
- 2 分布密度の経年変化から発生量は年変動が大きく（図3）、2009年級群が卓越年級群で、2011年以降の漁獲量の急増は2009年級群が漁獲に加入したためと考えられる。
- 3 稚貝の分布は中谷里～吉崎、西下～粟生で多く、中里～東浪見で少ない傾向があり（図4）、稚貝の出現には地先ごとに特徴がある。
- 4 稚貝の分布が確認された調査点のうち73%は底砂が細砂であることから（図5）、底砂の粒径は稚貝分布密度と関係がある。
- 5 調査点により分布密度が大きく異なる現象は、2009年級群のような卓越年級群も含め、底質の粒径が異なる場合や近隣の構造物の影響を受ける場合に生じる。
- 6 貝桁網漁業の経営安定のためには稚貝を確実に保護し、現状の資源管理方策を継続するほか、粒径を指標とした禁漁区の設定、2009年級群の有効利用のための現存量推定手法の開発、推定した現存量に基づく計画的な操業体制の構築が効果的である。

〔留意事項〕

〔普及対象地域〕 九十九里地域

〔行政上の措置〕

〔普及状況〕

[成果の概要]

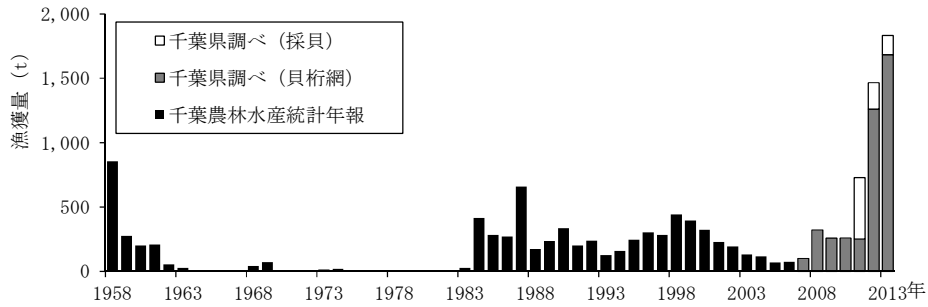


図1 九十九里浜(飯岡～一宮)におけるチョウセンハマグリ漁獲量の経年変化

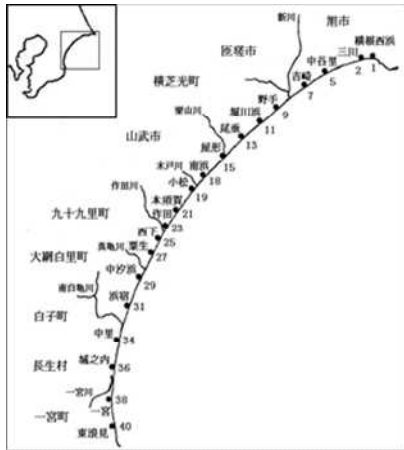


図2 九十九里浜汀線部に設定した調査点

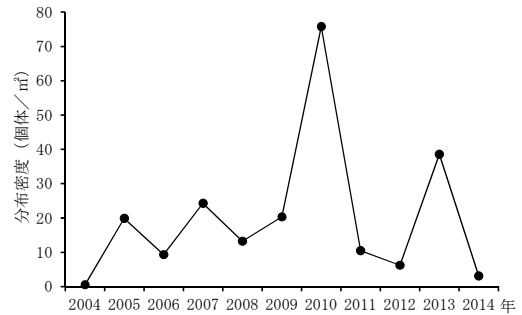


図3 九十九里浜汀線部におけるチョウセンハマグリ稚貝の分布密度の経年変化

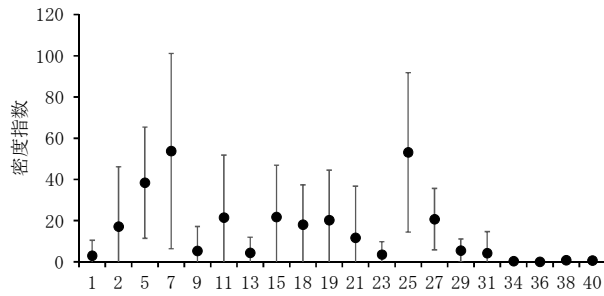


図4 2004～2014年における九十九里浜汀線部の調査点別平均密度指数
横軸の番号は図1の番号と対応
図中の縦バーは標準偏差を示す

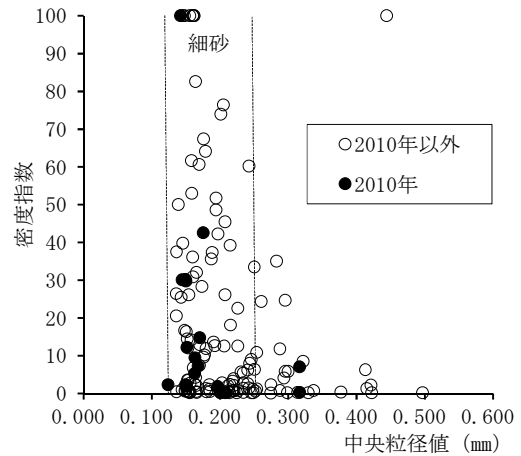


図5 2006～2014年における九十九里浜汀線部の各調査点別密度指数と底砂の中央粒径値の関係

密度指数:各調査年において最高分布密度となった調査点における分布密度の値で各調査点の値を除いた値

[発表及び関連文献]

加藤正人・小宮朋之・山下弘 (2016) 九十九里浜の汀線部におけるチョウセンハマグリ稚貝の分布状況, 千葉水総研セ研報, 10,1-6.

[その他]